

2030 Vision, Goals & Action Plan

「2030年までに私たちが実現したいこと」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS




SDGsは2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成されており、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものです。

Vision 1 つながりのプラットフォームとしての大学生協

● Action Plan Platform

Goal 01 いつでもどこでも、組合員と組合員、組合員と生協が、親しみを持ってつながり合えるようになっている。

- 組合員が生協の商品・サービスをいつでもどこでも利用できるように、オンラインツールの活用を進めます。
- 組合員同士や、組合員と生協との、リアルなつながり・心のつながりが促進されるような、オンラインツールの活用を進めます。
- 「一言カード」がオンラインツールでも有効に活用されるように工夫します。
- 組合員が、生協の事業と活動を通じて、大学コミュニティに参加できるようにします。
- 学生委員や生協役員が、親しみのあるやりとりをリアルでもオンラインでも実現することを通じて、組合員一人ひとりと生協、組合員のコミュニティやグループと生協、とのつながりを作る役割を果たします。
- 「つながり合い、語り合い、助け合い」のきっかけとなるような、大学単位、地域単位、全国での交流企画に年1回以上取り組みます。
- 学生の心身の健康、学びと成長を支える視点から、保護者や卒業生とのつながりも強めていきます。



Goal 02 大学キャンパス内の店舗が、組合員どうしをつながりによる「体験の場」「出会いの場」「地域にも開かれた場」としての役割を果たしている。

- 「食」「学び」など事業活動では、モノの提供に限らず、コミュニケーションの機会を提供していることを大切にします。
- すべての大学生協で、利用して居心地の良い、これからも利用したいと思えるような店舗(場)を、組合員の参加と協働で再度デザインし直して、運営します。
- 大学生協の事業と活動への参加を、相互扶助の精神を実感できる機会であるとともに、インターンシップ体験として位置付け、組合員の学びと成長の機会をつくります。




新店舗 MAPLE
愛媛大学




Goal 03 大学生協の新学期活動が、新入生が大学や仲間と初めてつながり合う場として確立され、大学・社会から認識されている。

- 大学や仲間と初めてつながり合う機会として、すべての新入生が参加することができる歓迎企画・説明会を実施します。
- 新学期活動を通じて形成された仲間とのつながりを継続・維持・発展させられる取り組みを広げます。
- 大学生活の先輩が後輩へ知識や経験を伝える取り組みを実施し、それを実践できる社会経験の機会を創出します。
- 大学生協は相互扶助を理念に置く組織である、と新入生が認識できるように加入提案を広げます。
- すでに組合員になっている大学構成員に対しても、生協の価値を伝える協同組合教育の機会を設けます。




Goal 04 大学コミュニティのハブとして、学生・院生・留学生・教職員等、すべてのキャンパス構成員が活動に参加でき、つながり合えるようになっている。

- すべての大学生協において、学部生・大学院生・留学生・大学教員・大学職員の各階層から役員(理事、監事)を選出します。
- 総代会制を採用するすべての大学生協において、階層、学年、学部等の選挙区を設定し総代を選出します。
- すべての大学生協で、自らの目標を持って、学生委員会を組織します。また、教職員委員会、院生委員会、留学生委員会の設置を進めます。
- 「大学生協は相互扶助に理念を置く組織である」との認識を広げながら、院生・教職員の生協加入率を90%以上にします。
- 自分たちの大学が好きになる取り組みを定期的に行い、広報します。
- 組合員が積極的に運営参加できる仕組みを整え、利用結集を高め、組合員の過半数の利用・参加を追求し、学生生活実態調査「大学生協の運営に参加してもよい+したい」で50%以上の回答を目指します。



大学生協とは? | 全国大学生協同組合連合会
ホームページ



Vision 2 学びをサポートするネットワークとしての大学生協

● Action Plan Network


Goal 05 学生からも大学からも頼りにされる「学び」のネットワークになっている。

- 電子コンテンツおよびデバイスの提供と安定した通信環境を提案し、組合員がいつでも、どこでも、だれとでも参加できる創造的な学びのコミュニティを実現します。
- 入学準備から卒業まで、デバイス・ソフト・コンテンツそしてソリューションを総合的に提案し、学生の自発的な学びをサポートします。
- 大学の学修基盤(FD、LMS、ポートフォリオ等)と連携した教育・学修ログの提供等を通じて、大学・教員に向けた教育(授業)へのサポートと、学生に向けた学修へのサポートを実現します。
- 教職員の協力の元に、引き続き頼りにされる教科書事業を継続し、書籍事業をはじめ、広く教育活動に関わっていきます。
- 教員や大学院生の声と参加により、大学における研究活動をサポートします。

※ FD: Faculty Development LMS: Learning Management System




早大生のための教養講座
早稲田大学生協
※写真は2019年度のもの




Goal 06 大学や地域社会と連携し、学生の入学から卒業までのキャリア形成支援事業を行っている。

- 大学や地域社会および企業や他の協同組合と連携しながら、多様なキャリア形成支援事業を行います。
- 学生の体験と学びを支援する企業等とパートナーシップ協定を結び、学び体験・インターンシップ・就職支援・就業体験・ボランティア等、学生の「体験と学び」をサポートする環境を整備します。
- 地域生協と協力して、学生の学びの成果をアウトプットする場、地域へ還元する場を提供します。
- 卒業生・同窓生との交流やリスク啓発講座等を通じて、学生の興味関心を広げる学びの機会・講座を提供します。
- オリジナル公務員講座・教員養成講座等を通じて、組合員が互いに学び合い、励まし合う資格取得を企画運営することで、目標を「かなえ、かなえ合うサポート」を提供します。



自己発見成長セミナー
日本福祉大学生協



Goal 07 学生が生協の事業や活動への参加を通じて学び・成長できている。

- 大学生協の参加と協同の仕組みを活かした体験を通じて、学生の多様な成長を支援します。
- 学生委員会活動としての、生協への参加(出資・利用・運営)を軸とした学びの場の提供を強めます。
- 学生が起点となり自ら企画・運営する事業や活動が、持続的に実施されることを大切にしていきます。
- 大学や地域社会との連携の中で、学生が学び・成長する体験の場を大切にしていきます。

